

少し複雑である。服虔・濱口説は、『論衡』射短篇・漢律佚文などに見える「居更」を無視して立論したものであり、事實を單純化しすぎてゐるのである。更卒の就役様式については、踐更・過更・居更およびその根幹にある更を含めた全體的理解が示されなければならない。

本報告は、更卒制度の中核をなす就役様式について再検討を加え、更卒制度全體の見直し作業の手掛かりを得ようとするものである。

『キタープ・パフリエ』

ヒジュラ暦九二七年本系寫本

新谷 英治

一六世紀初頭にオスマン朝の海軍指揮官の一人ピーリー・ライースによつて成立した地中海航海案内書『キタープ・パフリエ』の寫本には二種の系統がある。ヒジュラ暦九二七（西暦一五二二）年成立とされる原本に基づく寫本と、同じく九三一（一五二六）年完成の原本に基づく寫本であり、それぞれ二三寫本、九寫本が知られる。報告者は先に九三二年本系のスレイマニエ圖書館所藏アヤソフィア二六一二番寫本文の分析を試みたが、これ以外の九三二年本系諸寫本及び九二七年本系諸寫本の検討は、Paul Kahle, *Syriac Sources* らの研究はあるものの十分には行われていない。

今般九二七年本系寫本八點の寫しを入手できた。これらの寫本の

形態はけつして一様ではなく、しばしば章の配列（敘述の流れ）の亂れ、脱落などが起こっており、また全體の三分の一程度が九三二年本系の内容である寫本も存在する。知られてゐる最古の寫本である東ドイツ國立圖書館所藏B¹三八九番寫本は不完全であり、やや時代は下るもののトプカプ宮殿博物館所藏バグダード三三七番寫本がより本來の姿に近い。

このバグダード三三七番寫本を中心にして九二七年本系寫本の構成、内容を検討すると、敘述の流れは概ねアヤソフィア二六一二番寫本と同様でありながら、西地中海北岸區域ではアヤソフィア二六一二番寫本と異なり敘述の逆行現象が起こつていないこと、またオスマン朝領外の港や停泊地の説明でオスマン朝艦隊の派遣を意識した表現が見られることなど、いくつかの注目すべき事柄が知られる。検討對象の寫本は僅かに八寫本であるが、それらの相互の比較検討及びアヤソフィア二六一二番寫本との比較によつて得られた知見は、『キタープ・パフリエ』の全體像解明の手掛かりとなる。

マスウーディーの『黄金の牧場』

第三〜六章をめぐつて

竹田 新

『黄金の牧場と寶石の嶺山』は、イスラーム圏の旅行に多年を過ごした二ニイマーム派のアディーブ (adīb, 文人) マスウーディー